

序

2006年に薬学教育6年制が取り入れられてから知識だけでなく技能や態度にも重点を置いた教育が行われている。残念ながらその前の4年制の時代には、この技能や態度をわかりやすく解説したものがほとんどなかった。しかし医学ではイラストを多用した書籍によって手技までもがわかりやすく解説されていた。それが「臨床研修イラストレイテッドシリーズ」(羊土社)であった。はじめて見たとき私は大変ショックを受け、医学と薬学の技能に対する歴史の差を感じた。それからまもなく羊土社から「ビジュアル薬剤師実務シリーズ」発刊の話をいただき、いよいよ薬学も医学と同じような教育ができると確信した。そして6年制の学生が実務実習に行く前に、初版を創刊することができた。

2008年10月に発刊された本書は、コンセプトであるビジュアルつまりイラストや写真を多用することで今までの教科書の概念を超え、多くの薬学部で教科書として採用いただくだけでなく、実務に就かれている薬局や病院の薬剤師にも購入していただいた。初版からまもなく18年を迎えようとしている。その間、薬学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂されるごとに、それに準拠するだけでなく最新の薬剤師業務を解説することとした。そのために執筆者にも最新の現場業務をこなしている薬剤師に加わっていただき、大学内での教育と現場での業務がより近いものとなった。それは学生が実務実習に出たときにもギャップを感じることなくスムーズに実務を理解することに繋がると確信している。

このシリーズの初版を発刊してからの時代の変化は著しく、東日本大震災を契機に災害時における薬剤師の活動、登録販売者制度の開始、後発医薬品の促進、フィジカルアセスメントの普及、一般用医薬品のリスク分類や要指導医薬品の出現など薬剤師にとって新たな対応が迫られている。さらに社会の変化も著しく、地域包括ケアシステムの推進に伴い、薬局も「モノから人へ」、「病気の治療から予防へ」とシフトすることとなる。近年では、薬局DXに伴い、ロボットによる調剤やAIを利用した薬歴記入など、薬剤師業務も大きく変化している。本書はそのような社会変化にも対応できるようにした。そして本書の特色のビジュアル面においてはQRコードにスマートフォンをかざすことによって動画の視聴も可能とした。これにより写真では難しかった微妙な動きやタイミングなどが理解できるものと思う。

このたびの改訂第4版を発刊するにあたり、監修者には日本病院薬剤師会会長の武田泰生先生に加わっていただいた。また執筆者全員が旧シリーズの改訂ではなく新しいシリーズとして取り組んでいただいたことに深く感謝する。

最後に羊土社編集部のお秋本佳子氏、林理香氏に心より感謝する。

2025年11月

編者を代表して
上村直樹